

環境配慮技術

多摩平の森では、以下の4カテゴリーで合計16項目の環境配慮技術を実践しています。

自然環境の保全・再生	省エネルギー化・快適性
自然領地の保全	潜熱回収型給湯暖房機
グリーンバンクシステム	太陽光発電
その他	その他
資源の有効活用と廃棄物の削減	環境に配慮したライフスタイル
超節水型便器	緑のワークショップ
エコマテリアルケーブルの使用	共同花壇
その他	その他

環境配慮に取り組むコミュニティづくり

緑の継承と育成をテーマに、お住まいの方々とともに、緑のワークショップや各種イベントの開催などを行っています



右上 / お住まいの方々のボランティア組織が保存移植樹に実った梅で梅干や梅酒づくり
 左上 / 緑のワークショップから生まれた共同花壇
 左下 / お住まいの方々の自主管理組織による下草の手入れ

広域位置図



ワークショップや研究会が開催されました。地区の緑をより良い形で未来に伝えていくために、団地自治会、日野市、UR都市機構による三者勉強会を開催し、住棟配置計画や屋外空間の考え方などについて情報意見交換を繰り返し、建替計画をまとめました。

団地建設前から存在する「多摩平の森自然公園」の緑地や「ユリノキ通り」、「日野台教会・幼稚園（旧農村

伝道学校」など、自然・文化遺産の管理と活用も、建替計画の重要なテーマ。ワークショップでは、多摩平の森自然公園での活動の提案や公園内の設計、整備の方向性を検討しました。

技術的な取り組みとして、「グリーンバンクシステム（既存樹木の100%活用を目指して、保存・移植・リサイクルを行うシステム）」や「壁面緑化」などを活用し、自然環境の保全と再生に努め

ました。また、潜熱回収型給湯暖房機などを取り入れ、省エネルギー化にも配慮するなど、16項目の環境配慮技術を実践しています。

サステイナブルコミュニティの育成サポートや環境に配慮したライフスタイルの提案も行っています。緑の保全・育成に努める「緑のワークショップ」や共同花壇に植えつける苗の提供など、コミュニティ活動をサポートしています。

お住まいの方々と共に、40年の歳月を経た団地を再生し、自然と触れ合えるまちづくりを行ってきた多摩平の森再生プロジェクト。こうした自然環境に配慮した再生計画は、平成20年に、UNEP（国連環境計画）の承認を受けた国際的表彰制度「LivCom Award2008」において、環境配慮型プロジェクト賞銀賞を受賞しました（*）。

今後も、「もっと、もっと、するまちへ」をスローガンに、豊田駅周辺地区を含めた、人と緑が交流する快適で住み心地の良いまちづくりをすすめていきます。

人と人、人と緑が交流する
 これからの「多摩平の森」

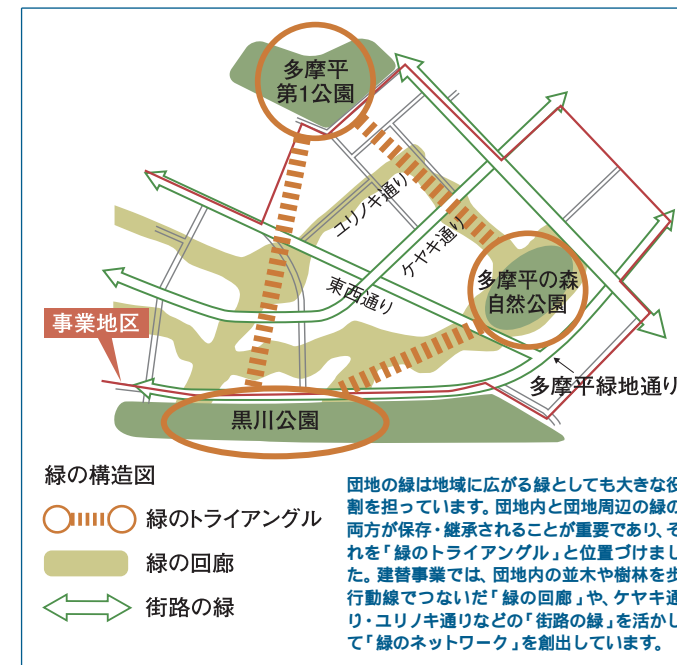


上 / 団地全体で最も太いユリノキ。幹まわりは約3.98m、樹丈は約25m
 下 / 文化遺産のひとつ、旧農村伝道学校の跡地に建つ教会



団地内には広さ約1haの多摩平の森自然公園が広がる

緑のネットワークづくり



団地概要（多摩平の森）	
所在地	東京都日野市多摩平
管理開始	平成14年3月
戸数	1,528戸
敷地面積	約12ha(自然公園約1haを含む)

多摩平の森は、大正時代に宮内省の御料林として設けられた樹林の一部を内包する緑豊かな団地。昭和33年に大都市近郊の衛星都市として誕生して以来40年間、既存樹木の保全と育成に努め、緑豊かなまちづくりを行ってきました。

再生計画のコンセプトは、「森を守り、ふれあう暮らし」。緑の継承と育成を軸とした景観の向上と生態系の保全を目指しました。既存樹木を1本1本調査し、お住まいの方のご意見を取り入れながら、6割にあたる樹木の保存・移植を行い、さらに新しい樹木を植えることで豊かな緑地空間を創出しています。

また、多摩平の森自然公園と団地周辺の緑地を、緑のトライアングルと位置づけ、緑地を繋ぐ「緑の回廊」や「ビオトープ」を設けて、生態系のネットワークづくりに努めています。

多摩平の森では、お住まいの方々の緑への思いを事業に反映するため、

緑地の保全と育成で
 まちと人と自然を結ぶ

「……多摩平の森 東京都日野市……」

「既存の緑を生かした新しいまちづくり」をテーマに再生を行った多摩平の森。緑地の保全と育成に努めた再生計画は、リノコムアワード2008にて環境配慮型プロジェクト賞銀賞を受賞しました。

平成9年には、住宅ストックの機能更新のため団地の建替事業に着手。自然緑地を建替後の団地環境の中で最大限に生かすことを重要課題に掲げ、自然との共生を目指して、13年に渡って再生事業を進めてきました。

森に親しむ
 住環境づくり